



米国株 MARKET PICK UP



先週の米国株式市場—買い材料に欠けるなか売りに押される—

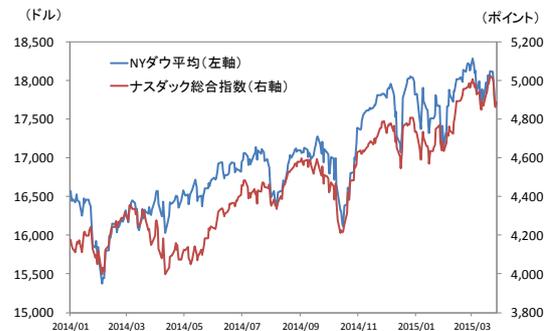
	前週終値	3月23日	3月24日	3月25日	3月26日	3月27日	週間騰落幅	週間騰落率
ダウ平均	18,127.65	18,116.04	18,011.14	17,718.54	17,678.23	17,712.66	-414.99	-2.29%
騰落幅		-11.61	-104.90	-292.60	-40.31	+34.43		
S&P500	2,108.10	2,104.42	2,091.50	2,061.05	2,056.15	2,061.02	-47.08	-2.23%
騰落幅		-3.68	-12.92	-30.45	-4.90	+4.87		
ナスダック総合指数	5,026.42	5,010.97	4,994.73	4,876.52	4,863.36	4,891.22	-135.20	-2.69%
騰落幅		-15.45	-16.24	-118.21	-13.16	+27.86		

<先週の概況>

先週の米国株式市場はダウ平均が週間で400ドルを超える下落となるなど、主要3指数が揃って反落しました。

米国株はドル高による企業収益の悪化懸念のくすぶりに加えてPER等の株価指標もやや割高感があり積極的な買い材料に欠けるなか、25日に発表された2月の耐久財受注が市場予想に反して前月から減少するなど、冴えない経済指標の発表もあって売りに押されました。

NYダウ平均とナスダック総合指数の推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

米国株式市場バリュエーション

指数	予想PER (倍)	PBR (倍)	予想配当利回り
ダウ平均	16.5	3.2	2.4%
S&P500	17.9	2.9	2.0%
ナスダック総合指数	21.9	3.7	1.1%

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成 (2015年3月27日時点)

S&P500と騰落レシオの推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

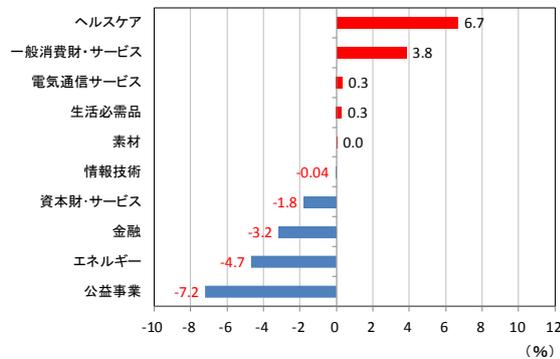
ドル円と米国長期金利の推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

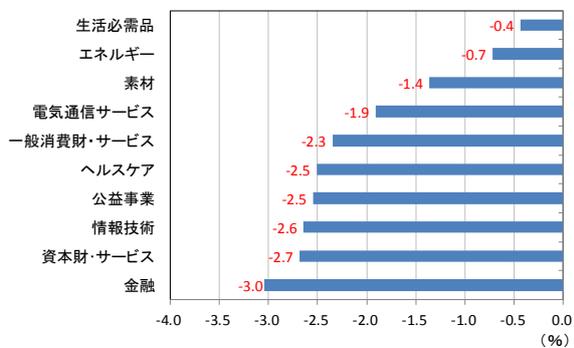
業種別リターン

S&P500 業種別年初来リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

S&P500 業種別週間リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

ダウ平均採用銘柄 週間騰落率ランキング

値上がり率ランキング (3/23-3/27)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
INTC	インテル	2.2
PFE	ファイザー	0.8

(出所) マネックス証券作成

値下がり率ランキング (3/23-3/27)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
AXP	アメリカン・エクスプレス	-5.7
CSCO	シスコシステムズ	-4.6
MSFT	マイクロソフト	-4.5
BA	ボーイング	-3.7
DD	イー・アイ・デュポン・ドゥ・ヌムール	-3.6
JPM	JPモルガン・チェース・アンド・カンパニー	-3.6
HD	ホーム・デポ	-3.1
PG	プロクター・アンド・ギャンブル・カンパニー	-2.9
V	Visa	-2.8
DIS	ウォルト・ディズニー	-2.7

(出所) マネックス証券作成

<上昇>

ダウ平均採用の30銘柄中、週間で上昇したのはインテル (INTC) とファイザー (PFE) の2銘柄にとどまりました。インテルは半導体メーカーのアルテラ (ALTR) の買収に向け交渉を進めていると報じられたことで上昇しました。

<下落>

幅広い銘柄が売られる中、シスコシステムズ (CSCO) やマイクロソフト (MSFT) といったハイテク関連銘柄の下落が目立ちました。また、アメリカン・エクスプレス (AXP) やJPモルガン (JPM)、ビザ (V) など金融株も軟調でした。

先週発表された主な経済指標

消費者物価指数 (CPI コア)

前月比	2月	+0.2%	市場予想	+0.1%	前月	+0.2%
前年同月比	2月	+1.7%	市場予想	+1.7%	前月	+1.6%

24日に発表された2月の消費者物価指数 (CPI コア) は、前月比が+0.2%と市場予想を上回った一方で、前年同月比は1.7%の上昇と市場予想と一致しました。

前月比が市場予想を上回ったことで、外国為替市場はややドル高の反応を見せました。



(出所)マネックス証券作成

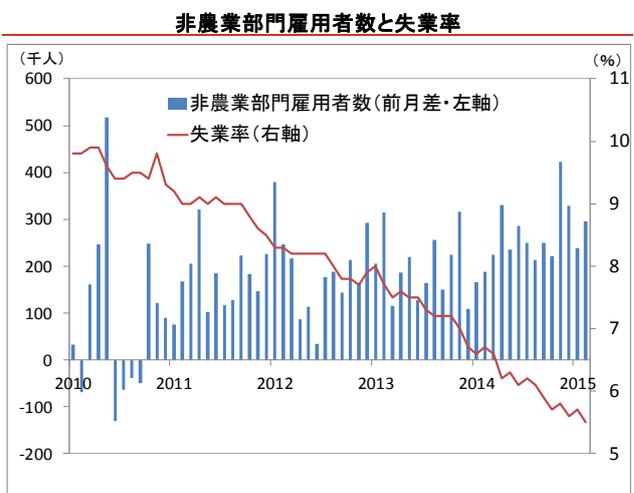
今後発表される主な経済指標

4月3日	3月	非農業部門雇用者数	市場予想	+24.8万人	前月	+29.5万人
		失業率	市場予想	5.5%	前月	5.5%

4月3日に3月の雇用統計が発表されます。最も市場の注目度の高い非農業部門雇用者数は前月から24.8万人増と堅調な増加が見込まれています。失業率は前月と同じ5.5%と予測されています。

労働市場が引き続き強い状態であると確認されれば、足元で交代している6月利上げ早観測が再び強まる可能性も残されています。

なお、雇用統計の発表日である4月3日は聖金曜日のため米国株式市場は休場です。



(出所)マネックス証券作成

マーケットビューーやや売られ過ぎ感ある米国株 今週は反転を期待ー

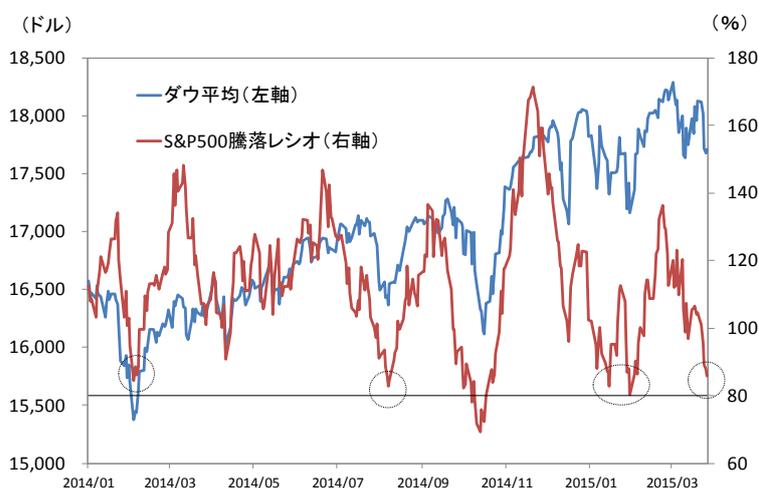
先週のマーケットビューーではファンダメンタルズが冴えない中で判断が難しい局面ながらも、米国株の出遅れ感は強いことから、一段高が見込めるのではないかと記しましたが、結果的に先週米国株は反落となりました。筆者の想定以上にマーケットはドル高による企業収益の鈍化や冴えないファンダメンタルズを嫌気したものと考えられます。

今週は雇用統計以外にカンファレンスボード消費者信頼感指数、個人消費支出、ISM 景況感指数、新車販売台数など重要な経済指標が続々と発表されます。これらの指標の発表内容次第でマーケットの方向感が決まっていくことになりそうですが、これらの指数が軒並み悪化といったネガティブサプライズにならないければ、米国株はいったん反発の可能性があると見ています。

グラフに示したのはダウ平均と筆者が独自に計算した S&P500 の騰落レシオの推移ですが、足元で騰落レシオは 85%とやや売られ過ぎ感のある水準まで低下しており、昨年はこの水準を大底として何度か反発しました。

ファンダメンタルズの冴えない状況からダウ平均や S&P500 に史上最高値を更新するような力強さがあるとは考えにくい状況ですが、一方で 1 万 8000 ドル付近までの短期的な反発は見込んで良いのではないかと考えています。

ダウ平均とS&P500の騰落レシオの推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

フィナンシャル・インテリジェンス部 益嶋 裕

利益相反に関する開示事項

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

- ・当社は、本レポートの内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではないです。
- ・記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。
- ・提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。

- ・当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
 加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、
 一般社団法人 日本投資顧問業協会